

早池峰地域（門馬）の植生保護柵 網上げ作業を実施しました

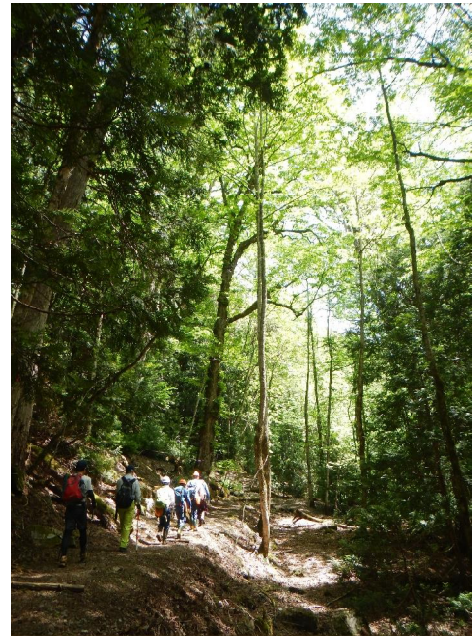
令和8年5月19日

岩手県宮古市 ^{かどま}門馬山国有林 323 と林小班外

「早池峰山周辺森林生態系保護地域」周辺では、ニホンジカ（以下、「シカ」という。）の増加による食害から貴重な植物を保護するため、関係機関や団体で構成される「早池峰地域保全対策事業推進協議会」と連携し、平成30年度から植生保護柵を設置しています。

この植生保護柵は、例年、冬期間の積雪等による損傷を防ぐため10月に網を下ろしており、シカが山を上り始める5月に網を上げています。

今年は、5月19日、職員6名及び宮古市の自然公園保護管理員2名の計8名で網上げ作業に臨みました。



早池峰山北麓の登山道「門馬コース」を握^{にぎりさわ}沢沿いに進み、約1時間で最初の箇所に着くと、早速作業開始です。今回が初めてとなる職員もいましたが、経験者の指導を受けて徐々に慣れ、午前中に予定していた網上げ作業を予定どおり終えることができました。

また、今回は昨年新たに生育が確認された箇所でも1区画植生保護柵を新設する作業も行いました。保護対象種の小さな芽生えがあちこちに見受けられたことから、誤って踏まないように足元を慎重に確認しながらの作業となりました。



午後は、握沢を渡って急な登り区間に点在する植生保護柵の網上げ作業です。

この春も保護対象種の樹木が花を咲かせていることを確認し、汗ばむ陽気の中、無事作業を終えることができました。



シカが増える前から現地を訪れている方はご存知の方が多いと思いますが、以前は緑に覆われ、多くの植物が生育していたものの、今では多くの植物が食害を受けてしまいました。

門馬コースの登山道を歩くとヤブになっている箇所はほとんどなく、森の中を遠くまで見渡すことができずしてしまいます。

また、シカが多い状態が長期化し、好んで食べる植物が減って不嗜好性植物（シカが好まない植物）が増えていますが、近年は食べる物が無くなるとトリカブトですら食べていることが確認されています。

このような状態で希少植物を保護するには、植生保護柵の設置が必要不可欠であることから、今後も貴重な植物を獣害から守るため、地域の皆様や関係機関等と連携を図りながら取り組んでいきます。



登山道沿いに生育するトリカブト
(他の植物は消失または成長できず小さいまま)